

暮らしの場を活かしたガイドで
ゲストに安曇野を楽しんでもらうエンターテイナー

「安曇野の案内人」 を目指して

—案内人の教室 導入編 テキスト—



平成 28 年(2016)2月

NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団

目 次

その1 案内人の心構え

- 案内人のシチュエーション 1
 - コラム「ふるさとウォッチング」 2
- 劇場空間・安曇野 3
 - コラム「フィールドミュージアム安曇野」 4
- 案内人の仕事の目的 5
 - コラム「安曇野案内人倶楽部」 8

その2 「案内する対象」のとらえ方

- 同じ風景、異なる着眼点 9
 - 「北アルプスの借景」に注目 9
 - ゲストの視点を意識して潜んでいるモノ・コトをあぶりだす 10
 - 季節を変えて 11
- 見える風景・見えない風景 12
 - 時間でとらえる 12
 - よく目にとまるものを掘り下げる 13
 - コラム「プラタモリ」 14
 - まちとまちづくりの痕跡を探る 15
 - ケーススタディ 山麓集落編1 堀金・岩原地区 16
 - ケーススタディ 山麓集落編2 穂高・牧地区 18

その3 案内のコツ

- 知っている と 話すことができる の違い 20
- ゲストを知る 21
- 案内人の知識と技術 23
 - こだわりを大切にしつつ、それに固執しない 23
 - 知識は大切だが、ガイド技術(コツ)はもっと重要 23
 - コラム「安曇野の郷科書」 24
 - つかみと笑い 25
 - ゲストの既得知識の活用 26
 - わかりやすい言葉と姿勢でコミュニケーション 27

資料編

- 参考資料1 さとやま楽校 概要 資料 1-1
- 参考資料2 さとやま楽校「案内人の教室」実践の記録 資料 2-1